

# السياحة الوافدة

(アッシャーハトゥルワーフィダ:  
アラビア語で「インバウンド観光」)

みなさん、こんにちは!

インバウンド観光対応の地域おこし協力隊、田川奈美です。

新型コロナの影響を受けた外国人観光客に対する入国制限が先月撤廃され、いよいよ本格的にインバウンド観光が復活しました。既に浅草や京都は外国人観光客で溢れているというニュースを目にしますが、ここ朝倉にも少しずつ外国人観光客が訪れ始めているようです。

先日、秋月にて、偶然オーストラリアからの旅行者と話す機会がありました。博多駅で色々なパンフレットを見ている時に、秋月の写真が目に残ったので来てみた、という彼。秋月行きのバス情報はGoogleマップにまだ掲載されていないため、どうやって辿り着いたのか聞いてみると、博多駅のインフォメーションセンターで全て教えてもらったとのことで、バスや電車の時刻が書かれた手書きのメモを握りしめていました。

実際に来てみてどうか聞いたところ、「英語情報が一切ないため、自分が何を見ているのかさっぱり分からずがっかり」との答えが。更に、「自分は日本語が少ししか分からないから、怖くてお店に入ることができず、ランチも食べていない」とのこと。オンラインで検索しようにも、空港で購入したSIMカードのインターネットが秋月では繋がらず困っていたそうです。そこで、秋月に来たら是非とも蒸し雑煮を食べて欲しい!ということで、蕎麦処秋月池田屋にお連れすることになり、その道すがら、せっくなので秋月案内をすることに。一緒にいたインタープリテーションを学び合う会のメンバーのおかげで、地元民ならではの情報や人との交流を提供でき、とても喜んでもらえました。博多に戻った後、Visit Asakuraのフォローもしてくれ、「次回は泊まりに行きたいです」とのメッセージまで!

道中彼と話をする中で、「秋月のようなところは景観や雰囲気を変えないよう、積極的にインバウンドを推す必要はないんじゃないかと思う。ただ、訪れた外国人に対して必要最低限の情報は提供してほしい。」と言っていたのが印象に残っています。地元の事業主さんの中にも「外国人にはあまり来て欲しくない」と仰る方々がいらっしゃいますが、理由を伺うと、以前、外国人観光客が大型バスで大量に押し寄せていた頃、民家に勝手に入って写真を撮ったり、庭の草花を勝手に取って行ったり、トイレの使い方が汚かったりと、色々な問題があったそうです。個人的には、外国人か否かではなくマナーを守る人か否か、また、守るべきマナーが異文化の相手にも伝わる形で共有されていたか否かの問題かと思います。ただ、いずれにせよ、インバウンドを推すことで、地元の方々が嫌な思いをされるのは本末転倒だと思うので、地元の方々と行政が共に、朝倉市におけるインバウンドの目的と在り方・進め方を考えていく機会が必要だと改めて思った次第です。



美味しかった!と喜んでくれた  
蕎麦処秋月池田屋さんの蒸し雑煮。  
お雑煮も茶碗蒸しも知らない人への説明は  
なかなか難しかったです。